キャラクター名
九重 てんこ(ここのえ てんこ)

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー サラマンダー	ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	16歳	性別	女
覚醒	渇望	衝動	解放	初期侵食率	35 %
出自	名家の生まれ	経験	絶縁	邂逅	同僚(任意)

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	0	0			4
感覚	0	1	0			1
精神	2	0	0			2
社会	2	0	0			2

HP	30
行動値	4
(非装備時)	4
戦闘移動	9
全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
「フフフ……燃え尽きてしまえばええんよ？」	白兵	10r		9		ﾒｼﾞｬｰ：炎神の怒りLv5+コンセントレイト：サラマンダーLv2 ﾏｲﾅｰ：氷炎の剣Lv3
「嫌やわぁ……全部消し炭にしてしまおかい」		0				ｵｰﾄ：氷雪の守護Lv5+ダイヤモンドダスト ＊HPダメージ-9D
「空に上る紅い灯……綺麗やわぁ」	白兵	11r		10		ﾒｼﾞｬｰ：炎神の怒りLv6+コンセントレイト：サラマンダーLv3 ﾏｲﾅｰ：氷炎の剣Lv4
「うちに届くやろか。届くとええなぁ？」		0				ｵｰﾄ：氷雪の守護Lv6+ダイヤモンドダスト ＊HPダメージ-10D

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
HR)Dロイス：《悪運-ﾊﾞｯﾄﾞﾗｯｸｰ》	P	N		
両親	P 懐旧	N 罪悪感		
村の人間	P 懐旧	N 憐憫		
八ヶ瀬 小鳩	P 連帯感	N 食傷		
食満 美千琉(けま みちる)	P 連帯感	N 無関心		
ツカサ	P 親近感	N 猜疑心		
三条 和葉	P 好奇心	N 無関心		

最大財産P: 6	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
氷の城塞	5	3	セットアップ					
効果：ラウンドの間、HPダメージ-[LV*3]。ただし、移動や離脱を行うと解除								
氷雪の守護	5	3	オート					
効果：自身へのHPダメージ-[LV+1]D。ラウンド1回								
ダイヤモンドダスト	★	3	オート				リミット	
効果：《氷雪の守護》にさらに-3D。								
灼熱の結界	4	1	オート					
効果：G値+[LV*2]								
氷盾	5	2	オート					
効果：G値+[LV*5]								
氷炎の剣	3	3	マイナー					
効果：シーンの間、武器を作成し装備。								
氷河の腕甲	1	3	マイナー					
効果：シーンの間、G値+[LV*3]								
氷の回廊	1	1	マイナー					
効果：飛行状態で戦闘移動。+[LV+2]m								
コンセントレイト：サラマンダー	2	2	メジャー			シンドローム		
効果：C値-LV								
炎神の怒り	5	3	ﾒｼﾞｬｰ/ﾘｱｸｼｮﾝ			【肉体】		
効果：判定ダイス+[LV+1]個。HP3点消費								
炎の理	★		メジャー	至近	効果	自動		
効果：炎を作り出す。必要があれば<RC>								
自動体温	★		メジャー	至近	自身	自動		
効果：自分の体温を適切な温度に調節する。疲労しにくい								
効果：								

普段から着物や(夏場は)浴衣を愛用する和風少女。
学生の時はきちんと制服を身にまとうが、戦闘時の衣装は着物。
炎のような柄の扇子を持ち、戦闘時は仰ぐことで炎を起こしたり氷を張る。
直接敵と殴り合うよりも、防御しつつ反撃の機会を伺う戦い方。長期戦に向いている。

自分の意志を無視し、行動を制限する者に容赦しない。それは過去に起因する。
茶道を嗜んでおり、よく1人でお茶を飲みリラックスしている。

↓九重 てんこの過去↓
関西地方の閉鎖的な村。そこで生まれ育ったてんこは、外の景色を夢見ながら大きくなった。
しかし幸せだったある日。雨が降らず干上がった土地を慰めるために、白羽の矢が立った。
家の戸口、九重家に刺さった矢は、その家に住むてんこを人柱にすることを定めたのだ。
しかし、ただ定めだから、と受け入れようとした彼女の心には、希望という執着が燻っていた。
「一度でええから村の外に出て……キラキラした、綺麗な街の光を見てみたかったなぁ……」
その願いは、叶えられた。
村は燃え盛り、炎は人々を燃やし尽くした。
村人は少女に許しを請い、怒りを吐き、朽ちていく。
両親は――最期まで少女に手を伸ばした。少女の頭を撫でるために。
そうして、一夜経ち、彼女を縛った全てのしがらみは燃え尽きた。
「あぁ……えぇ気分やわぁ……」
村が一晩で燃え尽きた事件。それは1つの都市伝説となり、すぐにUGNに保護されることとなった。